

施策番号 3-1-2	施策名 公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展	基本目標	誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり		
		政策名	いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり		
	主管課	公立芽室病院	課長名	西科 純	内線 62-2811(電話)
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
公立芽室病院が地域包括ケアシステムの中核施設として、また、「地域住民にとって不可欠な病院」として診療機能の充実を図り、町民の理解を経ながら病院づくりをすすめます。		公立芽室病院	持続可能な診療機能体制の構築と経営基盤の強化					質の高い医療の提供	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
① 患者数(外来)	病院決算状況	人/年	74,477	61,506	50,206	55,001	62,238	70,000	
② 患者数(訪問診療)	病院決算状況	人/年	50	40	46	74	62	150	
③									
④									
成果指標設定の考え方	①患者数(外来):“かかりつけ医”の病院機能を伸長し、内科・総合診療科を中心に患者数増加を見込み設定 ②患者数(訪問診療):自宅での看取り希望のニーズ(70%)を踏まえつつ、当院体制を鑑み設定								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	1,802,972	1,716,934	1,881,561	1,819,138	2,183,515
人工数(業務量)	6.3674	7.3747	8.2671	4.5768	6.5319

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえて職員一丸となって感染予防を徹底し、来院者にマスク着用や検温の理解と協力を得て、外来等を停止することなく運営を進めることができたため。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	新型コロナウイルス感染症の終息を見通せない状況下で、感染対策徹底、PCR検査、ワクチン接種等を継続した。経営・財務マネジメント強化事業を活用し、アドバイザーとして公立邑智病院の部門別原価管理会計システムを、当院に合った形で導入する。当院が求められている医療サービスを提供し、地域住民から信頼される医療機関を目指すことで目標達成が可能である。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	病院職員任免事務 病院経営企画事務 医療機器等整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	病院職員任免事務⇒医師確保が図れた。 病院経営企画事務⇒目標管理制度導入により、院長・副院長がヒアリングを行うなど、院内の対話も変化している。また、各部門で目標を設定し目標に向けて取り組むことで、経営に対する意欲が高まり、創意工夫により目標達成を目指した。 医療機器等整備事業⇒コロナに関する補助金により、感染対策に係る器械を購入することで、院内感染を防ぎ、PCR検査機器の購入で、検査体制の強化が図れた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	発熱患者を含めて、外来患者数が増加した。 医師確保による診療機能充実や、訪問診療・かかりつけ医としての機能強化が期待される。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	新型コロナウイルスが5類となり落ち着いてきたが、十勝圏の患者や町民の健康を守るため、今後も新型コロナウイルスに関わらず院内の感染対策を徹底し、持続可能な医療の提供が必要である。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	第1回目として2019年度に町民に病院を身近に感じてもらうことをコンセプトに病院まつりを開催し、当時の集客数を見ても、期待度は大きいと判断している。それ以降はコロナにより開催は見送られたが、今後も病院まつりの開催ができる方法を検討する。 議会厚生文教常任委員会に新しい情報提供を図り、上の実績だけではなく当院が置かれている状況や、取り組みを理解いただいていると判断している。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

国から発出された、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、当院の状況、今後の見通しや方向性を踏まえて、新たに策定した公立病院経営強化プランに沿って病院運営を行い、毎年プランの点検・評価・公表を行う。 経営・財務マネジメント強化事業を活用し、公立邑智病院の経営方式を学びながら、当院に合った経営方式を職員一丸となって取り進める。 総合診療科医師の増員し、「かかりつけ病院」としての機能強化を図る。また、訪問診療や訪問看護ステーション(2022/7)開設により、更なる在宅療養支援の強化を図る。 ワーキンググループ(WG)による職員のスキルアップや経営意識の醸成、他部署の職員間の交流、そして院内の課題の改善点を研究・議論を行う場として期待する。 新たに、自立経営プロジェクトとして部門別原価管理会計システムを導入し、各部門、全職員が経営に参画する。

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標②は徐々に数値が伸びている。組織内の改革や方向性も計画化しており、「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	・訪問診療の充実や地域包括ケアシステムなど様々な取組から「前進した」と評価する。 ・コロナの影響を考えると成果指標ではなく、コロナ対策や職員一丸の経営意識の高さも評価できる。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	・地域包括ケアシステムについて、病院だけでなく、町としても積極的に連携して進めてほしい。 ・SNSや冊子による職員の情報発信により病院が身近に感じ、町民の信頼を得ている。また、かかりつけ医として実感している。今後、医療の質に期待する。 ・ICN(感染管理看護師)を増やして強化した方が良い。 ・コロナ交付金がなくなった時に安定した経営を目指してほしい。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					